

---

# NGN IPv6 ISP接続 ＜トンネル方式＞ サービス仕様書

5.0版  
2010年6月

NTT東日本  
NTT西日本

# サービス仕様

- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| 1. IPv6 ISP接続<トンネル方式>サービス仕様 | 3 |
| 2. IPv6 ISP接続<トンネル方式>イメージ   | 4 |

# 1. IPv6 ISP接続<トンネル方式>サービス仕様

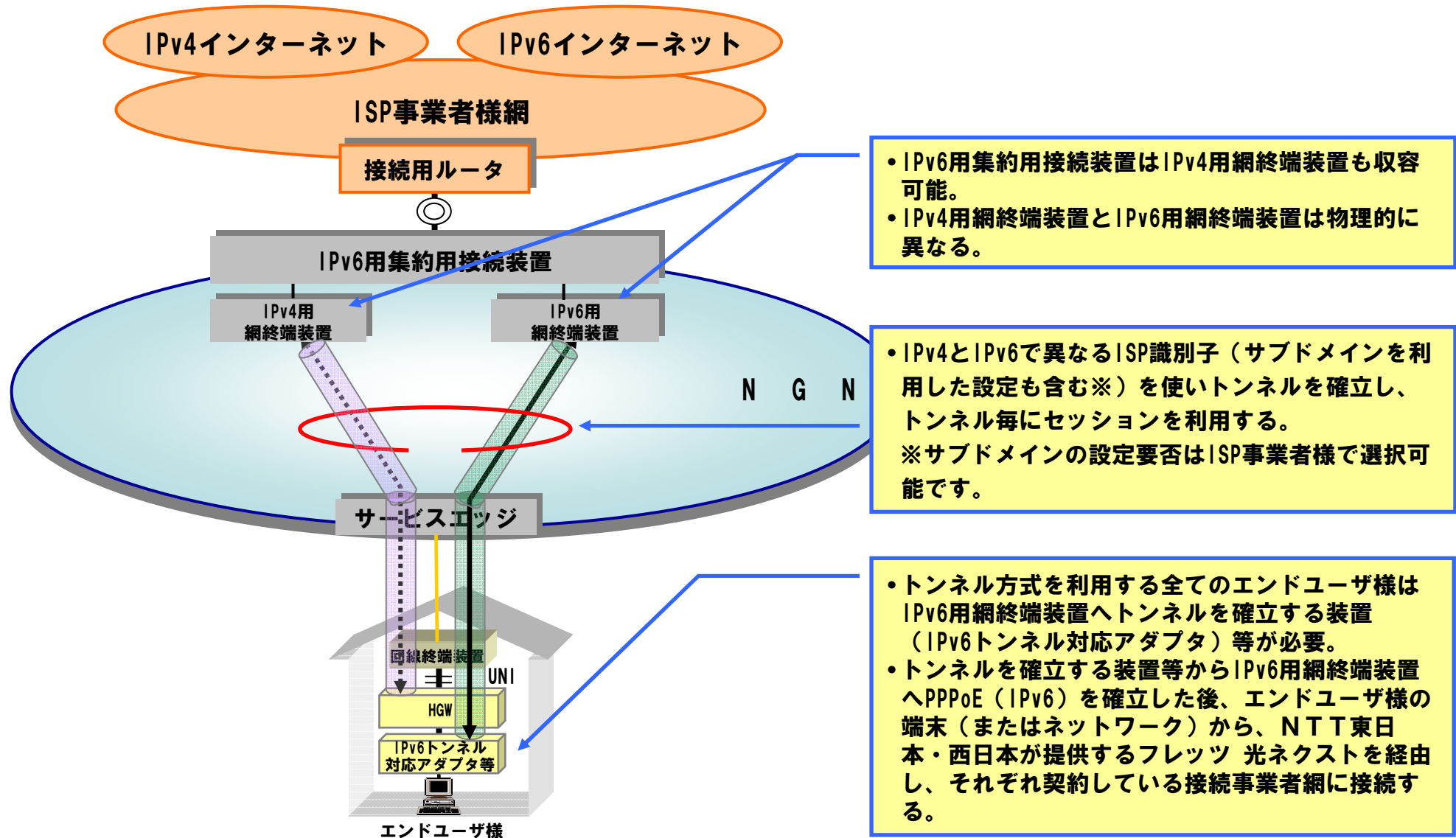
## サービス仕様（既存IPv4 ISP接続との比較）

		IPv4 ISP接続	IPv6 ISP接続<トンネル方式>
UNI	接続方式	PPPoE (IPv4)	PPPoE (IPv6)
	物理インターフェース	10BASE-T/100BASE-TX	同左
		MDI/MDI-X自動認識	同左
		1port	同左
	サービス提供速度	最大100Mbps	同左
	アドレス払出し方式	動的または静的	固定的割当 (UNI下部)
セッション数	2 (IPv4で2セッション)	2 (IPv4、IPv6で2セッション)	
NNI	物理インターフェース	1G(1000BASE-LX)、10G(10G BASE-LR) ※1G、10G以外の接続要望については個別対応	同左 ※1G、10G以外の接続要望については個別対応
		IPv4接続	IPv6接続 ※IPv6専用の網終端装置で対応し、IPv6対応の集約装置によりインターフェースの共用を実現
	ルーティング方式/冗長化方式	Static・Dynamic	同左
	認証方式	RADIUS (ID+Pass) お客さまIDを利用した 回線認証の利用が可能	同左
アドレス払出し方式	RADIUS (Poolからのランダム払い出しと ISP-RADIUSによるアドレス指定)	RADIUS (ISP-RADIUSによるアドレス指定) ※Prefix長は/48~/64の範囲で設定可能 ※Prefix長はISP事業者様ごとに固定	

※ UNIはフレッツ 光ネクスト(ファミリータイプ)での比較

## 2. IPv6 ISP接続<トンネル方式>イメージ

### トンネル方式によるIPv6 ISP接続の実現



- IPv6用集約用接続装置はIPv4用網終端装置も収容可能。
- IPv4用網終端装置とIPv6用網終端装置は物理的に異なる。

- IPv4とIPv6で異なるISP識別子（サブドメインを利用した設定も含む※）を使いトンネルを確立し、トンネル毎にセッションを利用する。  
※サブドメインの設定要否はISP事業者様で選択可能です。

- トンネル方式を利用する全てのエンドユーザ様はIPv6用網終端装置へトンネルを確立する装置（IPv6トンネル対応アダプタ）等が必要。
- トンネルを確立する装置等からIPv6用網終端装置へPPPoE（IPv6）を確立した後、エンドユーザ様の端末（またはネットワーク）から、NTT東日本・西日本が提供するフレッツ 光ネクストを経由し、それぞれ契約している接続事業者網に接続する。